

のっぽの手

お節介の虫がムクムクと頭をもたげてきました



ふくしまNPOネット
ワークセンター

理事 加藤 節子

先日、三本木橋の信号で止まっていると目の前を尾の長い鳥が道路を横切って山の方へ飛んでいきました。よく見ると雉です。1月なのに暖冬故か、それとも吉兆かと1人ニンマリしながら仕事へ向かいました。この日は開業医さんのところの母親学級の日です。

そう、私の本業は助産師。福島市では唯一、家庭分娩を行う出張開業助産師です。昔ながらの家庭分娩です。

なぜ今頃そんなお産を選ぶのか

- ①よく分からないけど何となく
- ②産婦のライフスタイルの一部（自然派）
- ③前のお産のとき、病院で人間らしい扱いを受けなかった。今度は・・・。
- ④前のお産後身心共に回復するのに一年以上かかったetc.

そして、私がなぜこの道を選んだか。

昨今の我が子への虐待、育児放棄、親が子を、子が親を殺すなど、「とんでもない！」あまり多くの報道に辟易です。

我が子を妊娠したときの誇らしさ、妊娠中のもろもろの不安や不快な症状、辛い陣痛を乗り越えてのお産、元気な我が子に会えた時の嬉しさ、誇らしさ、母乳をあげているときの幸せな気分、それを夫が支えてくれている本当に幸せな時間・空間をお互いに共有したはずなのになぜ？と考えたときに、お節介の虫がムクムクと頭をもたげてきました。妊・産婦さんの側において母親として自立できるまで見守ろう。昔の産婆が果してきた役割一家族として一人立ちできるまで家族ぐるみにかかわって行こう—と思いました。

助産師の本領は「妊・産婦の生活の場において妊産婦とその家族に寄り添い、妊婦自身がセルフケア能力を高めることを見守りつつ、出産を安全に介助し、社会の核となる家族の成長を助けること」といわれています。女性の生活をトータルに支援していきたいと思っています。

さて、そこでなぜNPOなのか。これはNPOにかかわってみて分かったことです。私は旧来型の一方的な医療ではなく、市民参加型の医療を望んでいたのだと。

また—昨年参加したオーストラリアでのICM—世界助産師連盟の大会—その後のニュージーランドの出産事情の見聞を通し、お産は医師と助産師と消費者である妊産婦の協働であるということを知ることができました。NPOにかかわってみて分かったことを大切に、もっと深く考えられたらいいなと思っています。

ふくしまNPOネットワークセンターの変わり種ですが、今後どうぞよろしくお願いいたします。



第1回パソコン講習会 報告 事務局 渡辺 卓也

「NPO事務局スタッフ向け表計算ソフトExcel 2003 初級講座」が1月31日よりスタートいたしました。定員は4名なのですが、あえて少人数にして、「ていねい」「ゆっくり」を前面にうちだしています。参加者の皆様も和気藹々と受講されています。

ところで講習のサポートのため、各団体様の

パソコンの利用状況を尋ねております。すると具体的な日常作業の話になり、自然と活動状況を知ることができます。これは回を重ねるごとにセンタースタッフにとって貴重な“財産”になると思います。

今後はプレゼンテーションに役立つ「Power Point 初級講座」を実施する予定です。

会員アンケートの結果から

期待と注文こもごも

ふくしまNPOネットワークセンター
理事長 清水 修二

せんだって会員のみなさん対象に簡単なアンケート調査を行いました。回答者が16人と少ないのでデータとしての意味は大きくありませんが、結果をご報告します。

まず「これまで当センターの活動にどの程度参加してきましたか？」の問に対しては次のようなご回答でした。

	よく参加	たまに参加	ほとんど不参加
総会	5	7	4
NPO研究会	7	4	5
各種イベント	1	8	6

回答をくれたのは比較的積極的な意識をお持ちの方だと思いますが、それでも3分の1前後の人が「ほとんど参加せず」という現状です。次に「当センターの事業についてどの程度ご存じですか？」の問では下のような結果です。

	知ってる	名称だけ	名称も知らない
市民活動サポートセンター	10	5	0
まちの駅（情報ステーション）	8	6	1
コラッセふくしま賑わい創出	3	8	4

会員向け広報紙「のっぽの手」をどのくらい見ていただいているか、については「読んでいる」(11)「ザッと見る程度」(5)でしたが、「ほとんど目を通していない」とか「手元に届いていない」とかは幸いありませんでした。また「のっぽの手」に載せてもらいたい情報として一番多かったのは「研究会や講座等」(12)、2番目は「活動報告」(7)の順です。

当センターの会員向けサービスについて訊いてみました。結果は「十分である」(4)「普通である」(6)「やや不足である」(6)「全く不足している」(0)で、正直言って予想したよりも高い評価でした。最後に「あなた向けにはどんなサービスを最も望みますか？」と伺いましたが、「情報の提供」(6)「学習機会の提供」(6)「活動機会の提供」(3)という結果が出ました。

自由記述の欄にいろんなご意見をいただきました。

「身近に感じていない」「存在意義を強く感じたり認識したりすることがない」

「何となく自己満足の場という感じがします」といった厳しい意見もありました。

ほかに「弱小NPOの支援をし、協力して下さることが大事な役目。」

「理念、目標をしっかりと掲げて、人が替わっても理念組織は生き続けるようなNPO、人が支配するNPOでなく理念に人が集まるNPOであってほしい。」

「会費に対して情報が不足していると思います。HPもきちんと更新されていない箇所もあり、工事中のままずっと放置されています。これから組織的にきちんと運営されるような土台をつくっていく段階に入ったと思います。そうしないと委託事業を行っていく時に信頼を失うことになると思います。」

「行政、産業界、商店会などでどのような連携が形成されつつあるのか、そういう動きについての情報がほしい。」

といったご意見が寄せられました。参考にさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

第41回NPO研究会 「まちづくり三法の改正とNPOへの期待」

12月19日のNPO研究会は福島商工会議所 中小企業振興部長 本田 政博氏を講師にお迎えし、「まちづくり三法の改正とNPOへの期待」についてお話を頂戴しました。

以下、講習より

「まち全体の郊外化」「店舗販売の構造的減少」「消費活動の変化」などの需要構造、「廉価・大区画の用地供給増大」「大手を中心としたマスタアマネジメント」「まちの活力低

下」などの供給環境の変化が背景にあることを確認。そして今後の課題である「まちの機能の回復」「消費者便益の向上」そして「コンパクトなまちづくりの推進」について意見を交換しました。(渡辺)



2007年2～3月行事予定

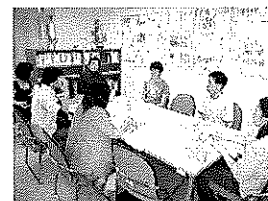
ふくしまNPOネットワークセンター

2月20日(火) 第42回NPO研究会 「市場化テスト」の導入とNPO
講師 清水 修二(しみずしゅうじ)
ふくしまNPOネットワークセンター理事長/福島大学経済経営学類教授
ウィズ・もとまち3F 中会議室 18:30～20:00
一般 500円 学生 200円 (会員は無料)

2月24日(土)、3月3日(土)、10日(土) 3日間
第2回表計算ソフトExcel 2003 初級講座 3日間コース
佐平ビルB1事務局内 各10:00～12:00 定員4名
参加費 2,000円(会員は1,500円)別途テキスト代 1,050円
申し込み〆切り 2月19日 問い合わせ先 TEL 024-528-1211

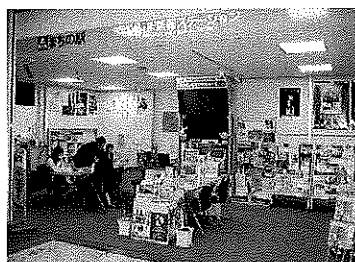
市民活動サポートセンター

2月24日(土) ミニシンポジウム 「NPOの明るい未来を話そう！」
ラヴィパレホール 13:00～17:00 入場無料
2月25日(日) NPO会計講座 経理経験者向
コラッセふくしま小会議室 10:00～16:00
参加無料(事前お申し込みが必要)



問い合わせ先 〒960-8004 福島市早稲町 4-16 ラヴィパレー番町3F
TEL 024-526-4533 / E-mail : f-ssc@bz01.plala.or.jp

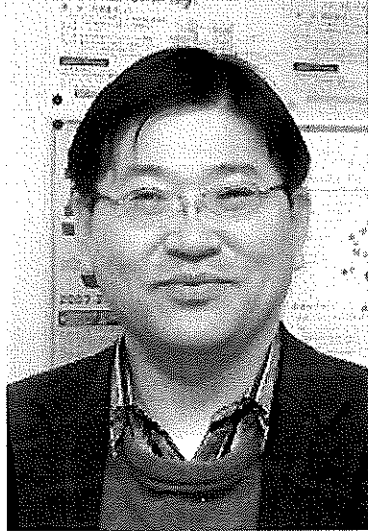
福島情報ステーション今後の動き



2月下旬から3月にかけて、もしくは4月にかかるかもしれませんが、今考えている企画は「奥州街道・羽州街道」歩いてみませんか?というテーマで国土交通省福島と郡山から特別にいただいた大変高価なパンフレットとリーフレットを掲示板にはり、来場客に旅へのいざないを計り、交流人口増大を企図するもの。同時に、必要なお客様の属性をアンケート形式で分析、国土交通省発行意思に合致させ、役所との絆を強めNPOの存続基盤を高めようとするものです。(ふくしま情報ステーション所長 武藤 進)

新理事の自己紹介

このたび1年ぶりに復帰いたしました 松田 英明



会津への転勤を機に理事を退いておりましたが、このたび1年ぶりに復帰いたしました松田です。センター会員の皆さまには、“また” よろしく願いいたします。m(´ `)m

事務局から原稿の依頼を受けたのは12月のクリスマス前でした。思い起こせば、1年前のその頃は当時の理事が引き起こした不祥事が発覚し、会員の皆さまをはじめとする多くの方々にご心配とご迷惑をおかけすることになった時期でありました。私も調査・対策委員会の一員として事件の究明に関わることになりましたが、あれから1年、会員の皆さまの「不信感」は幾ばくかでも払拭できましたでしょうか？理事に復帰してからの私の関心はその一点に集約されます。

NPO法人を含む市民活動団体が地域社会の中で責任ある役割を果たすためには、組織を支える『自立』と『自律』という両輪が機能することが必要であると言われております。私自身としては、それに加えて、組織運営の執行を担う理事は、センターの理念（社会的使命）を事業として如何に実現していくべきなのかを常に『自覚』していることも不可欠であると考えています。

もっとも、「責難は成事にあらず」ことは言うまでもありません。小野不由美さんの異世界ファンタジー小説に出てくるこの言葉を心に留めて、『自戒』しなければと思う今日この頃であります。

情報ステーション 新スタッフ紹介



くぼ しずこ
久保 志寿子

「ふくしま情報ステーション」にて勤務させていただいております久保です。”うつくしまふくしま“この福島の素晴らしさを一人でも多くの方にお伝えできれば・・・と、日々真心を込めてご案内致しております。

温泉めぐりや旅行等、美味しいものを味わい楽しむことが大好きで、その時の人と人との出会いを大切に生きていきたいと考えています。

これからもどうぞよろしくお願い致します。



うえたけ よしこ
上竹 佳子

11月よりふくしま情報ステーションにて勤務させて頂いております。お客様に愛され、大好きな福島の為に少しでも、お役に立てるスタッフになりたいと思っております。

まだまだ未熟で世間知らずの私ですので、職場の皆さんに支えられながら、「日々是鍛錬」己を磨いております。

こんな私ですが、宜しくお願いいたします。

編集後記・事務局便り

前号より編集を担当しております。去年は発行のサイクルが不定期、かつ発行回数も少なかつたりでご迷惑をお掛けしました。今後は新体制のもと、そのようなことのないようがんばって参ります。

また誌面充実の為、理事、職員はもとより、会員様、各団体様よりの投稿をお待ち申し上げております。当センターへのご意見、日頃の活動に関する事、はたまた「よもやま話」などございましたらぜひ下記宛にお寄せいただければと思います。

よろしくお願い致します。（渡 辺）

〒960-8034 福島市置賜町1-29 佐平ビルB1 ふくしまNPOネットワークセンター事務局
E-mail center@f-npo.jp FAX 024-528-1218

